

令和5年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットを活用しながらグループで調べ学習や協働学習を行う事で、発想を豊かにして、主体的にアイデアスケッチを描く事ができた。
- ・対話鑑賞を全学年に導入して、話し合い活動を充実させることができた。
- ・生徒が学びポケットのムーブノートにて、授業のふり返しをした成果を、評価の観点、主体的に学習に取り組む態度の評価材料にする事ができた。

(2) 課題

- ・タブレットを活用して深い学びに結び付けられる表現活動を、年間授業計画の中に増やす。
- ・協働学習を全学年に導入して、話し合い活動を充実させていく。
- ・主体的に学習に取り組む態度の、毎時間の評価でみとれる評価材料を増やす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	実施なし	実施なし	/
第2学年	実施なし	実施なし	実施なし (第1学年時)
第3学年	実施なし	実施なし	実施なし (第2学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期当初の授業で、協働学習ができる対話鑑賞を導入して、コミュニケーション活動を充実させることができた。 ・学習した色に関する知識を活かしながら、絵の具による混色や着色の技能を身につける事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話鑑賞を通して、発見したこと、感じたことを豊かに言語表現できている。友人との意見交流から、見方・感じ方を深める事ができた。 ・参考作品や友人の作品から、想像力をふくらませて、豊かに発想を展開し、自分の表現活動にその良さを還元することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前から授業のねらいを記入する習慣を身につけ、授業準備をしっかりとして授業に臨むことができている。授業規律が身に付いている。諦めずに根気強く、学習課題に向き合う姿勢を培っていく必要がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 作品の時代背景や、作者のエピソード等に関心を持ち、良さや美しさを感じ取ることができる。 友達の作品の良さを感じ取り、見方・感じ方を広げようとする生徒が多い。 作業手順と注意事項を守り、基本的な技能を習得できる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の評価の観点やねらいを理解して、発想力を膨らませて表現活動することができる。 ファシリテーターを中心に、グループでタブレットや書籍資料を活用して課題の構想を練ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を身に付け、主体的に表現及び鑑賞活動することができる。 用具の基本的な使い方、ルールを正しく理解し、安全に作業することができる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品に興味をもって鑑賞活動ができ、優れた発想や技能の良さを素直に感じ取り、自らの作品に還元する事ができている。 作業手順と条件を理解し、計画的に作品を完成させることができる。 根気よく、丁寧に制作を積み重ねて作品の完成度を上げる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の評価の観点とねらいを明確にすることで、集中して表現活動に取り組んでいる。 ファシリテーターを中心に、グループでタブレットや書籍資料を活用して課題の構想を練ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律が身に付き、毎時間、主体的に制作に取り組む生徒が多い。 作品を美しく、よりよく仕上げようと試行錯誤しながら制作することができる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 色彩に関する基礎的知識の座学と、絵具の着彩・混色の基礎的な技能を獲得する実技を並行して行うことで、学習の定着を図る。 基本的な用具の使い方と応用、安全な道具の取り扱いについて、丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動にて協働学習を行う。完成作品の相互鑑賞を行い、良さを感じ取ったことをタブレットに意見をまとめ、発表し意見を共有して、見方や感じ方を広げさせる。 ファシリテーターを中心に、タブレットを活用して、主体的な調べ学習を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話鑑賞において、ICTを活用した四人組による協働学習を充実させる。 授業評価シートを定期的に点検することで、粘り強い取り組みをしているか見とる。 タブレットを活用した、作品のプレゼンシートの記述より、完成までのプロセスの学習状況を把握する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・より良い表現と絵具の応用的な技能を習得するために、道具の扱い方や材料の特徴を丁寧に説明する。・毎時間導入の5分間スケッチを継続し、ポイントを理解させ描写力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none">・協働活動を取り入れる。アイデアスケッチの段階で、作品を見せ合い対話を深めながら作品をよりよくなる点に気づき、工夫させる。・美術館の鑑賞教材を活用する。気づきと感想をタブレットに記入し、意見共有することで、見方や感じ方を深めさせる。	<ul style="list-style-type: none">・タブレットを用いた、対話鑑賞において、四人組による協働活動を充実させる。・授業評価シートを定期的に点検することで、粘り強い取り組みをしているか見とる。・タブレットを活用した、作品のプレゼンシートの記述より、完成までのプロセスの学習状況を把握する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・より良い表現と絵具の応用的な技能を習得するために、道具の扱い方や材料の特徴を丁寧に説明する。・実物投影機を活用して、作業見本の手元がより良く提示して、作業上のポイントを伝え、技能の習得を目指す。	<ul style="list-style-type: none">・協働学習を取り入れる。アイデアスケッチの段階で、作品を見せ合い対話を深めながら作品をよりよくなる点に気づき、工夫させる。・美術館の鑑賞教材を活用して、対話型鑑賞を実践する。気づきと感想をタブレットに記入し、意見共有することで、見方や感じ方を深めさせるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・修学旅行事前学習として、仏像を中心とした日本美術と伝統的な表現技法を学び、教科間の連携を計り興味関心を向上させる。・授業評価シートを定期的に点検することで、粘り強い取り組みをしているか見とる。・タブレットを活用した、完成作品のプレゼンシートの記述より、完成までのプロセスの学習状況を把握する。